

本日の新聞論調 (第四百二十八號) 内閣情報部二・一 (木)
 一、再開議會と政黨 (朝日)
 一、議會と内閣、政黨 (都)
 △政黨に對する國民の期待 (讀賣)
 △安定を望む (都)
 △電力調整令の發動 (日日)
 △獎勵金制に慎重を望む (朝日)

本日の新聞論調 (第四百二十八號)

内閣情報部二・一 (木)

内 容 目 次

- △議會再開
 - 一、第七十五議會の展望 (國民)
 - 一、議會再開と各派の態度 (日日)
 - 一、米内内閣と議會の活用 (讀賣)
 - 一、議會再開と國民の要望 (中外)
 - 一、建設的言論を望む (報知)
- 一、再開議會と政黨 (朝日)
- 一、議會と内閣、政黨 (都)
- △政黨に對する國民の期待 (讀賣)
- △安定を望む (都)
- △電力調整令の發動 (日日)
- △獎勵金制に慎重を望む (朝日)

X X X

△議會再開

一、第七十五議會の展望 (國民)

平沼内閣の場合といひ今度の場合といひ再開議會直前の政變は、政治の責任を解消さ

ではいはざるも胡麻化し去るに甚だ都合よく、責任政治遂行の點より洵に寒心に堪へぬ。再開議會は阿部内閣下における程緊迫感はないかも知れぬが、米内内閣のもつ性格は多くの問題を議會に與へ複雑微妙な場面の展開も豫想に難くない。即ち米内内閣は明かに反軍事同盟である。このこと自體が重臣的内閣であり現状維持的内閣であつて、従つて完全なる舉國體制を採り得ざることを證明してゐる。一部參議の辭任はその端的な現れである。また議會内部からみても社大黨、時局同志會は反政府態度を表明し、政友會の中島、久原兩派も現内閣に釋然たらざるものあるを香はせてゐる。民政黨のみ政府支持の態度を明かにしてゐるか幹部の統制緩みその効果は疑問である。殊に去る各派有志代議士の運動が行詰つた現状を矯める本質的動きであつたならば、阿部内閣と何等變る所はなく或は更に現状維持的な現内閣に對し一段と強い反政府體制を表明して然るべきである。加ふるに物資不足は深刻化し國民の不滿は一層つのり、議會の論戰はこれを反映し活潑に政府攻撃を展開するだらう。ただその際考慮すべきは單に政府の統制缺陷を指摘したのみでは時局に對し建設的意義をもつものでないことだ。今日必要なのは建設的論議である。國政批判、監督の職能の外に今日の議會には積極的に國政遂行に協力し、國民の力を背景にして政府に進むべき方向を示唆する重大役目があるが、實際は從來と變らぬ議會に終始すると豫想せざるを得ぬを遺憾とする。寧ろ吾々の關心は議會外の諸々の動きにある。

一、議會再開と各派の態度（日日）

七十五議會の特色は事變以來初めて議會に反對黨が現れたことである。しかし議會に反對黨のあることが直ちに精神的にも舉國體制を破るものと斷じ去るは早計である。

むしろ反對黨があることによつて國家の立場、換言すれば國民の對支處理方針若くは國際交渉に關する理解と感情を一層明瞭的確に内外に表明し得る場合もある、この意味からすれば議會の色彩が一色一様に表現せらるるよりもより有効に舉國一體の精神的實績を擧げ得ることもいひ得る、この關係は内政上も同様である、ただそれを實際に表現するに際して極めて周到な用意と慎重態度が必要なのである、米内内閣成立と共に新に反對黨の立場をさるに至つた各派が如何なる用意と態度を示すかは國民の關心事である、事變處理と之に伴ふ國際交渉が當面の最も重大問題たるはいふまでもないが、最近極めて重要性をもつに至つた經濟問題は再會議會で論議の焦點となるはいふまでもない、この點に關し町田總裁は不快なる經濟問題惹起の理由を政府部内の相剋不一致、更に事態の真相に國民の耳目を掩つた爲と斷言してゐる、現下時局は單に過去施政の批判に終る時ではなく、難局打開の積極策を講ずることが最も必要である、「この時局を擔當し得る戰時内閣は軍と國民に基礎をもつ政黨との堅き結合に待たねばならぬ」といふ町田總裁が民政黨を率ゐる如何なる態度で所論を顯現せんとするか注目される。

一、米内内閣と議會の活用（讀賣）

同じく事變下とはいへ今議會には自ら從前のそれは政治的關係を異にする特色がある、その一は政府對政黨關係の變化である、米内内閣は過去數代の内閣と違つて對政黨觀を改

め政府政黨の關係を一新して舉國體制への前進を企圖してゐるが、實は形の上で政黨を重んずるのみでなく國民をして維局の實情を納得せしめ朝野一體邁進する途をさらねばならぬのであり、その施策に議會を如何に利用し得るかが問題である、その二は議會審議の中心たる豫算案が前内閣案そのままなることである、今次の青木豫算については杜撰尨大の謾りが高く、このままでは物資關係から實行不可能であり悪性インフレへの拍車豫算と極言するものさへある、従つて審議に當り削減論乃至實行豫算作成の主張の出ること必然で意外の波瀾が起らぬとも限らぬ、その三は經濟政策の重要性である、當面の問題は石炭と電力に焦點を作つてゐるが觀念論的統制經濟が却つて無統制的な混亂を捲起した形になつてゐる、その是正救治の方策が議會でどれ程の成果を見るか國民は注視してゐる、議會對政府の關係の變化と時局の重大化とは國民をして議會に對する期待を大ならしめてゐるが要するに議會の論議が單なる批評的彈劾に終ることなく、建設的協力的な指導力を發揮し他方政府が今後の施設につき國民協力をかり得べき議會を見出さんことを望んでゐるからである。

議會再開と國民の要望（中外）

今議會に課せられた國政審議の任務は極めて重く國民が議會に期待し要望する所も決して少しとしない。

就中財政經濟問題は國民生活の休戚に關し、恐らく全議會を通じて本問題に關する論議は自然化すると豫想され、重點が明年度豫算案並に之に照合すべき物動計畫に集中すること必然であらうが、政府當局は可及的に詳細なる法律案乃至計畫内容を發表し嚴正なる批判を俟つべきである。今議會の財政經濟問題の核心は豫算案の多寡より寧ろ豫算と物資の需給の調和乃至豫算の施行と今後の物價、物資政策との關聯如何にあるから、政府も政黨も此觀點に立脚して明年度豫算物動計畫は勿論電力、石炭、米穀、肥料等緊急を要する物資對策についても徹底的再檢討を遂ぐべきである。政黨側としては今日の物價物資政策の矛盾缺陷等は民間の實情を基礎とし施政に忌憚なき批判を加へることは急務であるが末節問題に拘泥して根本を衝くに至らぬことは政黨共通の缺陷であると同時に政黨自ら冷靜に現實の事態を正確する客觀的態度を缺いてゐる體左に他ならぬ。再開議會に對處すべき米内閣の方針も政黨各派の對議會策も既に成つたが何等新味を見出し得なかつたのは時局に鑑み不満の感なきを得ない。政變直接原因が阿部内閣に對する政黨の反對決議にありその反作用で出來た今内閣に對する政黨の態度も微濫的たるを免れまいが過去二年有半の試煉を経て國民の政治に對する認識も一段と進歩してゐるから若し政黨が國政審議を政治的駈引の犠牲に供する如きことあらば國民に對する威信を愈々失墜することとならう。

事變處理、外交問題、國內問題等解決乃至解決への曙光が期待されてゐる現在今議會こそはかゝる曙光を如何なる線に見出すかに重大意義あり全國民の關心も此一點に集中してゐる。米内内閣にとり今議會は決して樂觀を許さざるは言ふ迄もない。表面に現はれたものを見て民政黨が與黨的立場を明かにしてゐる他は、社大、時局同志會は既に反政府的態度をとり政友中島派は是非々々、久原派も積極的援助の態度とは見受けられぬ。それだけ政府は身を賭して當るの覺悟がまづ必要であらう。や、もすれば新内閣の性格が極めて微温安協に失するにあらずやの危懼を抱きやすい。しかし時局は八方美人主義的圓滿主義で打開し得る程易々たるものでない。逼迫せる事態を隠蔽し單なる政治的小手細工によつて難關を突破せんとするはあまりに古き政治技術である。議會こそは國民の協力支持を得る絶好の機會政府は當々所信を披瀝し時艱突破の政策を明かにし國民の燃え上る積極進取の氣魄を局面打開の一線に動員組織化するの熱意を示すべきであらう。議會としても國民の總意を政治に反映すべき本然の使命を自覺し政府に對し誠し懇く衝くべきは衝いて國家の進むべき大道を拓き國家總力を統合一體化する中心點たるの心構へが先づ必要であらう。

揚足取、議場馳引の策士的所作等の「お芝居」には國民は憎惡を感じてゐる。戦時議會なるが故に論議の紛糾は避くべきださういふが愚論も甚だしい。議事の簡捷を圖るため政府議會間に特定の機關を設けることもよく、各派の心ある人々が横斷的に相諮つて時局認識高揚のため自主的運動を展開するもよからう。第七十五議會こそ眞に戦時議會としての眞面目を發揮せんことを期待すると共に火花散る建設的言論の展開されんことを切望する。

一、再開議會と政黨（朝日）

何が阿部内閣を倒したかの認識程度により議會の言論は低調にもなり高級にもならう。例へば有志代議士會決議の威力を過重に評價して政黨時代來るやの夢想に耽溺論の放恣に陥る場合もあり、また軍の支柱の取外されたのを重大原因と見し複雑な政權工作の下心で終始せんとする傾向も起るかも知れない。かやうな政變觀は何が有志決議や支援放棄を生み來つたかの基礎的時局認識を缺き、それに基く批評的言論は眞に國民の衷情に副ひ心から納得させるだけの底力を持ち得ない。とも角政黨に對する積極的人氣が澎湃としてゐるのではなく官廳勢力への不満が政黨をして物言はしめんとする程度に消極的に政黨を利してゐるに過ぎない。議會情勢は國民情勢を建設的方向に導く意味に於て正しく代辯する限り尊重に値し、たゞ客氣に任せ國民感情を利用して事あれかしの姿勢を

さつた場合議會が時局混亂の責任を負ひ却つて時局の波に取殘されてしまふかも知れない。與黨的な民政黨、やゝ是々非々立場の政友兩派と反政府的な時局同志會系統と夫々の差異があらうが、國民情勢は全政黨を一括してその動き方を凝視し信賴するに足る建設的創造の誠意と力量ありやを知らんと欲してゐる。再開議會を繞る時局の本質は、嘗て政黨の特長であつた國民地盤に立つこと、文武官僚の政治代行の理由たりし國家經濟、國家指導の長所を兼有した第三次的政治體制が今後政治の客觀的軌道であらうといふ大局觀が漠然と國の上下に感得し始め可成り大規模の切替へ時に迫出してゐるこの印象の裡に潜んでゐると思ふ。それ程の時局の深さと幅であるを痛感してこそ始めて政府は彌縫では駄目と覺り議會は肅然として全局の指導に役立ち得る。換言すれば低迷せる政府各當局、稍目ざめたる議會、更に數歩進んだ國民、これ等三要素が第七十五議會を圍繞する眞實の基本條件であることを鑑記せざれば議會の運営は頗る危いと感ずる。

一、議會と内閣、政黨（都）

今議會は政府と各政黨との渾然たる融和を以て無風状態のまゝ推移すべしとは考へられぬ。米内内閣は各政黨より代表關係を得て全面的の支持を受くるが如き形態を具ふるも各政黨の中には又各種の感情もあり議論もあり内閣の出様如何にありては今日の味方必しも明日の味方ではない。

國民にせよ今日好感を寄せてゐても明日の好感は約束されない。殊に各種の難問題あり、その處理必ずしも米内内閣の成功を期し難きに於ておや、内閣は深く輿論に注意して政策の砥礪に努むべく議會又嚴重に内閣の施政を監視すべきである。

今議會は米内内閣に對する試験たるに共に又政黨に對する試験である。政黨が威信を失してから年久く歴代内閣の失政により反動として政黨が漸く國民に思出され呼戻すのも一策かと思へられるに至つたのは昨今のことである。北條政黨が舊儀を改め眞面目の態度を以つて國政に參與し幾分にも國政に貢献し國民の寄託に報ふるに於ては國民は其考への過りに非ざりしを惜り再び政黨を歓迎するに至るであらう。政黨の及落は實に今議會の成績による。

△政黨に對する國民の期待（讀賣）

米内内閣に正式黨代表として政民兩黨より四名の關係を入れたことは、勿論この事實のみを捉へて直ちに政黨の復活を約束されたとは斷じ得ないが、官僚政治の獨善傾向に愛想を盡かした國民が反動的に政黨に對する再認識を加へんとする傾向を發生した昨今、政黨に自戒の誠意さへあれば早晚或る程度の復活を見るは必ずしも望みなしとはいへない。今や事變も收拾の一段階に進み國內機構の革新諸政の調整に關して政府も其處に國民各階層に根を張れる政黨の力の無視すべからざるを再認識する一方、政黨人も漸く自分自身を發見

するに至つた。既成政黨に代るべき新興勢力の一朝一夕に成立することの至難なるは無論多年培養された政黨の地盤はまた一朝一夕に崩壊し去るものではない。議會再開に先立ち開かれた衆議院各派の黨大會においては何れも時局の重大を強調し事變下内外諸政に参畫して大いに爲すあらんの意氣を示した。説く所は多かれ少かれ時弊を衝くものがあるにしても政黨が政府に求むる反省は同時にまた國民の政黨に求むる反省であり國民と遊離せる政黨は形だけの政黨で眞の政黨はいひ得ない。今後政黨としては新時代に適應せる機構と精神と政策に復活の一路を見出す以外になく、果して輿論の指導標たり得るや否やは議會の實績如何にあらう。

△安定を望む(都)

事變處理を始め幾多の難件が堆積せるに際し有爲奮能の内閣なく政情常に不安、國策遂行に支障を來せるは國民の憂とする所、國民は政争を好まず政變を歓迎せず、之を好み歓迎せるが如く見らるるは信頼すべき内閣なく政黨なきためである。米内内閣が其本質に於て必ずしも完全ならずして、施政に大過なければ國民は支持するに躊躇しない。只内閣の施政如何によるのみ。

△電力調整令の發動(日日)

逓信當局も遂に決意して電力調整令を發動せしめた。電調令發動の必要はわれ等も認める。しかし發令をして空文たらしめないためには、豫め業界との交渉において成算がなければならず、權力の發動において妥當でなければならず、すべて民間側の協力を得てはじめて所期の効果を擧げ得るものといはねばならぬ。當局は電調令發動と共に該令實施十日の後或は制限率の緩和を仄めかし、出炭のための強權發動のやむを得ざる場合あるべきことを暗示してゐる。今日になつてこのやうな見えすいた方針の宣言によつて果してよく目的を達し得るかどうか疑はざるを得ない。今日の急は萬難を排して電力を回復することである。しかして協力の精神に副はざるものに對しては強權の發動を逡巡する必要は毫もない。

△獎勵金制に慎重を望む(朝日)

石炭確保の應急對策に次では直ちに恒久對策が必要であり、その恒久對策は量質兩面の増産といふことに盡るが、政府は今回の停電騒ぎに直面し急遽増産獎勵金に解決方法を求めんとする如く藤原商相はその意向を語つてゐるが、これは低物價政策と増産政策との矛盾からの安易の逃げ口に過ぎず、しかも支出は明に國民の負擔を加ふることとなり財政は膨脹を招來し結局全政策はインフレの一途を辿るに過ぎない。増産についてプール平準價格制をさるなりして機構的に一應の構へを作つた上ならば價格に多少の動きがあつても、そ

の影響には限度があるのであるから物價安定機構については何事も考へず當座だけの近視的泥縄的な方策を以て後のことは構はないといふのでは今の經濟情勢に對してはもう政治だとは言へない。奨励金は必ず他の奨励金を呼ぶ。さらだに稀有の景氣の炭坑地は更にインフレの氣勢を加へるだらうと他方では中小工業や商人が先行きの暗きに悩んでゐる。き明暗凹凸は更に深まる一方であるを見る。デフレ的方向を考へてゐるとすらいふ櫻内蔵相はこの問題に如何に對處するか。暫く見守りたい。

△其他「内閣の責任」(都)

本日の新聞概観

第百四十四號 内閣情報部報道班二・一(木)

△概観

休會中の議會は愈々本日再會されるが各紙何れも議院關係をトップに、淺間丸事件で有田クレイギー會談の好轉空氣が傳へられ、電力調整令の發動等が重要課題であつた。「報知」及び「國民」に購讀料値上げの社告がある。

△國內關係

一、第七十五議會けふ再開

「朝日」は經濟問題で論戰開始とし各派代表の第一日の質問要旨を掲げ、「報知」は政情樂觀を許さずとし、其の他外交、經濟問題で論戰展開としてゐる。

二、電力問題

イ、電力調整令發動の告示は二月三日、十日實施に決定

ロ、石炭緊急對策けふ協議

ハ、石炭増産根本策、資材勞力配給優先に商工省決定(讀賣)

ニ、石炭強制融通、久原派要望

ホ、石炭積極増産へ、中島派の電力對策